

3/7～3/10、第75回公開講座を開催 「ロボットと人間：交錯する東西文化—機械に「心」は宿るか—」

武蔵大学（東京都練馬区／学長 高橋徳行）は、ロボットと人間をテーマにした公開講座を3月7日、8日、9日、10日の全4回にわたり開催します。75回目となる本講座では、本学副学長の踊共二がコーディネーターを務めます。本学名誉教授の小山ブリジット、アニメーション監督のりんたろう、東京大学教授の松原仁による講演のほか、からくり人形師の九代玉屋庄兵衛による実演もあります。詳しくはプログラムをご覧ください。

武蔵大学では、教育・研究のみならず、生涯学習の観点からその研究成果を広く社会に還元することを使命として、さまざまな講座を開催しています。

開催概要

日 程：2023年3月7日（火）～3月10日（金）

時 間：13:00～15:00

会 場：武蔵大学1号館地下1階 1001教室（東京都練馬区豊玉上1-26-1）

定 員：先着140名（どなた様でもお申込みいただけます。）

受講料：[全4回分] 2,000円（一般）、500円（武蔵大学在学学生父母、

武蔵学園卒業生）、無料（高校生、本学在学学生*）

支払方法：受講初回に、会場の受付にて現金でお支払いください。



プログラム

- 第1回：3月7日（火）「古代ギリシア神話から最先端のロボティクスまで：召使いか共生者か」
講師：踊 共二〈本学副学長〉
- 第2回：3月8日（水）「ヨーロッパのオートマタと日本のからくり人形：自動人形は何を思う？」
（玉屋庄兵衛氏による実演あり）
講師：小山 ブリジット〈本学名誉教授〉・九代玉屋庄兵衛〈からくり人形師〉
- 第3回：3月9日（木）「1秒間24コマの我が人生：鉄腕アトムからメトロポリスまで」
講師：りんたろう〈アニメーション監督〉
- 第4回：3月10日（金）「“人間化”するロボットたち：汎用AIは実現するか」
講師：松原 仁〈東京大学教授〉

お申し込み

- 受付期間：2023年1月30日(月)～2月16日(木) 受付期間を延長して受講申込を受け付けております。
- お申込み方法：以下のいずれかの方法でお申込みください。
 - 「PC専用申込サイト（<https://web.634.co.jp/seminar/898/>）」よりお申込み
 - 「FAX」、「e-mail」、「郵送」でお申込み。次の①～⑥を明記のうえ、送信（郵送）してください。
 - ①第75回公開講座「ロボットと人間：交錯する東西文化」
 - ②氏名（フリガナ） ③郵便番号・住所 ④電話番号 ⑤FAX番号（ある方）
 - ⑥申込区分（一般、本学在学学生父母、本学園卒業生、本学在学学生*、高校生）

※在学学生とは、武蔵大学の学生、大学院生、科目等履修生、研究生、練馬区特別履修生を指します。

—報道関係者問い合わせ先—

武蔵大学 広報部

TEL:03-5984-3813 FAX:03-5984-3727 E-mail:pubg-r@sec.musashi.ac.jp



2022年4月17日、武蔵学園は創立100周年を迎えました

■ **武蔵大学** 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス:西武池袋線「江古田駅」から徒歩6〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から4年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開設、キャンパス内留学の拠点とした。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えるこの年に、新学部となる国際教養学部を開設し、経済、人文、社会、国際教養の4学部9学科となった。

学長 高橋 德行

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1